

令和8年度入学宣誓式 学長告示

桜の花がほころび、春の光が静かに大地をあたためる本日、佛教大学に入学された新入生の皆さん、ご入学、誠にめでたうございます。佛教大学の教職員を代表し、心よりお祝い申し上げます。

また、これまで皆さんの歩みを支え、励まし続けてこられたご家族ならびに関係者の皆さまに対しましても、深く敬意を表しますとともに、本日の佳き日を共に迎えられましたことを、心から嬉しく思います。

本日より皆さんは、学部生・大学院生・別科（仏教専修）生として、佛教大学という新たな学びの「場」に身を置きます。

本学は1912年の開学以来、「仏教精神を根幹とした人格の陶冶」を建学の理念として掲げ、今日まで114年の歴史を紡いでまいりました。その長い歴史の中で、本学が一貫して問い続けてきたことがあります。それは、「学びとは何か」、そして「人はどう生きるべきか」という問いです。皆さんは今日、その問いを自らのものとして歩み始める、新たな出発点に立っています。

先ほどの法楽など仏教的儀礼をご覧になり、「少し驚いた」「ヤバいところに来た」「大学のイメージと違った」と感じた方もおられるかもしれません。本学では、日々読経の音が流れます。けれども、心配はいりません。その声は、皆さんに何かを強制するためにあるのではなく、むしろ、慌ただしい日常の中で立ち止まり、自分を見つめ直すための「時間」を与えてくれるものです。学びとは、知識を増やすことだけではなく、心の姿勢を整え、世界と自分の関係を深く考えることでもあるからです。

仏教精神とは、決して古い教えではありません。それは現代に生きる私たちにとっても、なお必要な「生きる指針」です。仏教は、生命を尊び、他者と共に生きることを説きます。そして、すべての存在は互いに支え合い、つながりの中で生かされているという真理を示します。

自分ひとりで生きている人は、誰ひとりとしていません。私たちは、家族、友人、地域、社会、自然、そして無数の縁に支えられて、今日を生きています。その事実気づくことが、学びの第一歩であり、人としての成長の始まりです。

本学のタグラインは、こうした仏教精神を一言に凝縮したものです。
「ありがとうございます、あふれる世界を。」

「ありがとう」という言葉は、日常の中で当たり前のように使われています。しかし、その語源は「有難し」、「有ることが難しい」「めったにない」という意味を持ちます。つまり、誰かが自分に手を差し伸べてくれること、誰かが自分のために時間を使ってくれること、誰かが自分の存在を認めてくれることは、本来、

決して当たり前ではないのです。それは「稀なること」であり、尊いことです。だからこそ、私たちは感謝を言葉にし、「ありがとう」と伝えるのです。感謝は、ただの礼儀ではありません。それは、他者の存在を認め、つながり確かめる行為であり、人と人との関係を温め、社会を優しくする力です。

「ありがとう」という言葉は、AIがどれほど進化しても、人と人との関わりの中でしか生まれません。だからこそ、その価値は未来においても決して色褪せることはないでしょう。佛教大学は、この「ありがとう」を社会に広げることのできる人材を育てる大学でありたいと願っています。

さて、皆さんがこれから過ごす大学生活は、単に知識を得るための時間ではありません。大学とは、「自分の世界を広げる場所」であり、「自分自身を育てる場所」です。

授業で得た知識は、皆さんの視野を広げます。ゼミナールでの議論は、皆さんの思考を鍛えます。友人との対話は、皆さんの価値観を揺さぶり、深めます。クラブ・サークル活動や地域活動は、皆さんに社会の現実を教えてくれます。そして何より、京都という歴史と文化が息づくこの地で学ぶ経験は、皆さんの人生に大きな彩りを与えることでしょ

一方、大学生活が常に順調であるとは限りません。思うように成果が出ないこともあります。人間関係に悩むこともあります。進路に迷うこともあるでしょう。そのような時こそ、皆さんに思い出してほしいことがあります。それは、「壁にぶつかった経験こそが、人を育てる」ということです。仏教では、人生は思い通りにならないものだと説きます。だからこそ私たちは学び、考え、支え合い、前へ進むのです。迷いの中でこそ、人は本当の意味で自分を知り、成長していきます。

心配は不要です。佛教大学には、皆さんを支える教職員がいます。共に学ぶ仲間がいます。そして、皆さんの可能性を広げる学びの環境があります。

皆さんの挑戦を、私たちは全力で支えます。どうか失敗を恐れず、何度でも挑み続けてください。その歩みの先に、皆さん自身が想像している以上の未来が開けていくはず

佛教大学での学びが、皆さんにとって「自分の人生を誇れる時間」となり、そして皆さん一人ひとりが、社会の中で「ありがとうが、あふれる世界」を実現する担い手となることを、心より願っております。

改めまして、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんの大学生活が、学びと出会いに満ちた、かけがえのない日々となりますことを祈念し、私の告辞といたします。

令和8年4月1日 佛教大学長 佐藤和順